



# 学校だより

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを とともに生きよう感謝の心で

令和6年9月号

横浜市立谷本小学校

学校HP



## 「願いはひとつ」

校長 高橋 哲雄

今年の夏は、オリンピックからたくさんの感動や元気をもらいました。そして、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。何よりもうれしいことです。長期休業前にいつも子どもたちに「願いはひとつ。みんな元気で休み明けに会えること。」ということ伝えてあります。当たり前のことのようで、とても尊いことだと思っています。これからの時期は、1年のうちで一番充実して成長する時期です。学習や行事を通して子どもたちに確かな力をつけていけるよう取り組んでまいります。

夏休みを挟んだので少し前のことになりますが、6月25日、青葉区小学校国際平和スピーチコンテストが開催されました。本校では、6年生全員が4月から持続可能な開発目標(SDGs)の学習に取り組み、17の目標のテーマの色を使ったアートを制作したり、「国際平和のために、自分がやりたいこと」をテーマに作文を書いたりしました。子どもたち一人ひとりが社会のことをしっかりと考えていてよい取組になりました。本校の代表としてスピーチコンテストに参加した児童のスピーチ原稿をご紹介します。

### 「みんなが幸せになれる世界への第一歩」

みなさんは学校が好きですか。私は大好きです。なぜなら、たくさんのことを知れるし、新しい発見や楽しいことがたくさんあるからです。

みなさんは勉強できるのが当たり前と思いませんか。私たちは今こうして学校や家で勉強できていますが、この時間に、学校に行けないで家の手伝いをして毎日川の水を汲みに行ったり、畑を耕したりしている私たちくらいの子もやもっと小さい子どももいます。勉強するのがめんどくさいという人がいるけれど、勉強をしたくてもできない子どもがたくさんいます。教育を幼いころに受けられなかった人たちはなかなか就職できず、その人たちの子どもも教育を受けられる可能性が低くなります。今の世の中では、SDGsの4番の「質の高い教育」が受けられません。だから、今教育を受けられている私たちが、SDGsのことをもっと勉強して知って、そのような人たちを支援したり募金したりしたらいいのではないのでしょうか。

私がSDGsについて考え始めたのは、1冊の本に出会ったときからです。その本は、世界の国々の子どもたちの通学路のお話です。私たち日本の小学校の通学路は、道路などが整備されているのが当たり前だけど、他の国の子どもたちの通学路は、毎日何時間も山を登ったり、ヤギに乗ったり、狭い道を歩いたり、壊れかけている橋を渡ったり、遠い遠いずっと続きそうな道を歩いたり、学校に机と椅子がないから家から持って行ったり、すごく大変だと書いてありました。私たちはたまたま、今日学校行くのめんどくさいとか思ったりするけれど、こんなに整備されていて、短時間で学校に行けるのって幸せなんだと思いました。

私は、通学路の本に出会うまでは、勉強できるのは当たり前で勉強するのはめんどくさいと思った時もありました。けれど、勉強できるのは幸せで、将来この職業につきまいたい、と思ったりした時に選択肢が広がるとてもうれしいことだと知りました。小学校を卒業したらランドセルを寄付して、外国の子どもたちにあげたいな、と思いました。ランドセルは、机がない国の子どもたちの勉強机にもなるので教育を受けられる機会が増えるとてもいい道具だなと思いました。これからも目の前にある学習に真剣に取り組み、この知識を生かして人の役に立てるようになりたいです。恵まれていることに甘えず、いろいろな知識を蓄えていきます。



## 相手の気持ちを考える

児童支援専任 仲本 匡

本校は、「子どもの社会的スキル 横浜プログラム」に取り組んでおり、どの教室にも3つの基本ルールを掲示しています。その一つ、「暴力No」は言葉の暴力も含んでいます。気付かずに相手に嫌な思いをさせる言葉を使うこともあるので、相手の気持ちを考え、言葉を使うよう伝えてあります。また、いじめ対策推進法もあり、お子さんがトラブルに関わった際、小さなことでもご連絡をしています。コロナの影響で、区全体でも「相手の気持ちを考える」ことが苦手なお子さんが増えているという話が出ています。学校では気持ちを確認しながら、「次、トラブルにならないためにどうすればいいのか」を双方のお子さんと考えています。学校からご連絡があった際は、お子さんと一緒に双方の気持ちを想像し、どうすれば互いの成長に繋がるか、考える機会にさせていただければと思います。